

設計業務等の損料及び単価表

令和7年5月1日以降適用

項 目	規 格	単位	単 価	備 考
【機械器具損料】				
モノレール機械器具損料	50m以下	日	2,000	総設置距離
モノレール機械器具損料	50m超～100m以下	日	2,400	総設置距離
モノレール機械器具損料	100m超～200m以下	日	2,600	総設置距離
モノレール機械器具損料	200m超～300m以下	日	2,900	総設置距離
モノレール機械器具損料	300m超～500m以下	日	3,200	総設置距離
モノレール機械器具損料	500m超～1000m以下	日	4,600	総設置距離
索道機械器具損料	100m以下	日	-	
索道機械器具損料	100m超～500m以下	日	-	
索道機械器具損料	500m超～1000m以下	日	-	
【解析等調査業務】				
既存資料の収集・現地調査	直接人件費	業務	113,000	
資料整理とりまとめ	直接人件費(解析等調査業務費)	業務	90,000	
資料整理とりまとめ	直接人件費(直接調査費)	業務	106,000	
断面図等の作成	直接人件費(解析等調査業務費)	業務	87,900	
断面図等の作成	直接人件費(直接調査費)	業務	106,000	
総合解析とりまとめ	直接人件費	業務	486,000	
【測量機械等損料】				
GNSS測量機	1級(2周波)	日	15,190	
GNSS測量機	2級(1周波)	日	11,580	
トータルステーション	1級	日	18,770	
トータルステーション	2級	日	5,500	
トータルステーション	3級	日	5,810	
レベル	1級	日	14,480	三脚・標尺を含む
レベル	2級	日	8,380	三脚・標尺を含む
レベル	3級	日	3,180	三脚・標尺を含む
飛行機	単発	時	155,710	
航空カメラ	広角、FMC付き	時	88,030	
図化機	2級A	日	30,230	

設計業務等の損料及び単価表

令和7年5月1日以降適用

項 目	規 格	単位	単 価	備 考
【機械器具損料】				
飛行機停留料	24時間毎 3 t 以下の航空機	日	810	※1 ※2 (計算例は末尾参照)
	24時間毎 3 t 超 6 t 以下の航空機	日	810	
	24時間毎 6 t 超 23 t 以下の航空機	日・トン	30	
飛行場使用料	着陸1回毎 6 t 以下の航空機	回	1,000	※1
【地すべり調査関係機械損料】				
伸縮計	格納箱、インバー線は含まない	基・日	215	
傾斜計	格納箱は含まない	基・日	99	
静歪み指示計		台・日	215	
孔内傾斜計	指示計含む	台・日	1,590	
【地すべり調査関係材料単価】				
パイプ式歪計	φ48mm t 3.6mm (1方向2ゲージ)	本	3,870	ソケットレス仕様
リード線	3芯	m	63	
アルミケーシング	φ47mm×3m	本	9,600	立上がり1mを含む
アルミカップリング	φ47mm	ヶ	2,400	
ケーシングキャップ類	φ47mm	組	3,400	

※1 単価は「国土交通大臣が設置し、及び管理する空港の使用料に関する告示」による。

※2 停留料は、航空機の重量を各級に区分して、順次に各料金率を適用して得た金額の合計額。(3時間未満は無料)

飛行機停留料の計算例

20 t の場合 (3時間以上空港内に停留する航空機について、24時間毎に計上)

$$3 \text{ t 以下} = 810 \text{ 円} \cdots \textcircled{1}$$

$$3 \text{ t 超 } 6 \text{ t 以下} = 810 \text{ 円} \cdots \textcircled{2}$$

$$6 \text{ t 超 } 23 \text{ t 以下} = (20 - 6) \text{ t} \times 30 = 420 \text{ 円} \cdots \textcircled{3}$$

$$\textcircled{1} + \textcircled{2} + \textcircled{3} = 810 + 810 + 420 = \underline{\underline{2,040 \text{ 円/日 (計上額)}}}$$